

1. 須坂に雇用の場があつてこそ、子孫は住み続けられます！

都会から離れた地方で成長する子どもたちは、高校卒業時に就職か進学か、就職は地元の企業か？都会か？進学も地元の大学か？都会の大学や専門学校か？の選択が大きく立ちはだかります。いわば「18歳 将に人生の選択」と申せます。

毎年、須坂から大勢の18歳が都会に流出します。人生の目標を叶えるための巣立ちであり、これは古より地方が負う宿命です。大切なのは都会に出た彼らが4年後にどの位の青年がこの須坂に戻って来れるかです。18歳時の同期生が23歳になった時の人口差が少ない程、「須坂市は地力と魅力がある町」と言えます。

今や善光寺平の広域的範囲で、雇用の場や創業の場を求めなければ、子孫らは郷里須坂で住み続けることは叶いません。人口減少時代の須坂市が如何に魅力ある「まちづくり」を、強(したた)かな指標をもって突き進むかです。都会での学業を終えた彼らが郷里に戻って来れる手立ては、偏に須坂に雇用の場を創ることに尽きます！ 大型商業施設の須坂開設に向けて全力を傾ける意義は、将に子孫が住み続けることが可能な郷里須坂にしたい。この一念に尽きます。